

# 図書館旧館改修工事： 第三書庫内部改修とカウンター移設

おかもと ひじり  
岡本 聖

(三田メディアセンター主任)

## 1 はじめに

三田メディアセンターは、慶應義塾が実施した図書館旧館（以下「旧館」とする）耐震工事に関連して大規模な資料移転と再配置を行った<sup>1) 2)</sup>。本稿は、これらの作業以後に取り組んだ旧館第三書庫内部の改修とカウンター移設、資料再配置の継続調整についての報告であり、旧館耐震・改修工事関連の最終報告となる。

三田メディアセンターは、慶應義塾図書館（以下「新館」とする）・旧館・南館図書室の3つの図書館からなり、随時各館の設備について改修や修繕を行っているが、旧館は1982年の新館開館の際に大規模改修されて以降、ほとんど整備されていない状況であった。旧館は建物そのものが非常に古く、増築が繰り返されるなど建築構造上複雑である点に加え、重要文化財としての敷居の高さが改修の難しさに影響していたと思われる。今回、第三書庫内部を広範囲に改修することとなった経緯は、慶應義塾が実施した旧館本体（第一書庫を含む）と第二書庫の耐震工事ならびに外装・内装の保存修理の流れを汲んでいるが、第三書庫はこの大工事の対象ではなく、三田メディアセンターが別途相談した計画に慶應義塾の管財部の協力が得られたことが非常に大きい。

## 2 改修前の旧館

第三書庫改修まで、旧館を案内するときに必ず必要な説明があった。

『入口は旧館本体正面ではなく研究室棟側にあります。』

『入ってすぐ受付はなく、エレベータで3階にあるとカウンターがあり、そこから入館します。』

『入館後は、書庫内にエレベータがありません。フロアの移動は階段をご利用ください。』

100年以上の歴史がある建物とはいえ構造的にわかりにくく、特にエレベータに関しては地下2階～

地上5階の建物の案内としては、心痛を感じる状況であった。かつては製本新聞・議会資料・旧分類図書等の研究資料が多く配置され、研究室棟3階と旧館3階を繋ぐ渡り廊下によって利便性が高い時期もあったが、耐震工事の影響で渡り廊下が撤去されたことでその利点も失われ、動線の最適化が必要となった。そこで慶應義塾の耐震工事終了後、仮移転している資料をよりよい配置に戻すとともに、使いやすさと安全性の向上を目指して以下のような基本計画を立て実施した。

### 2019年度

- ・旧館は、経・商・文（外国語文学関係）・遠山音楽文庫図書を中心に資料を分野別に再配置する。
- ・旧館地下1階第一書庫・第二書庫へ収容力の高い集密書架を設置する。

### 2020年度

- ・出入口ならびにサービスカウンターの配置を安全面・利便性の両方から再検討する。
- ・旧館地下2階～地上4階の各書庫にアクセスしやすいようエレベータの利用を可能にする。

## 3 改修内容

### (1) 出入口の移動

前述のように、建物正面ではなく側面にある裏口のような扉が旧館の出入口であるが、資料再配置を検討し始めた頃、新館建設以前の旧館が図書館の中心として機能していた時のように本体正面側に出入口を変更する思案があった。そうすれば旧館に入る際に、荘厳な全体外観やステンドグラスをより身近に感じられるだろうという意図があったが、旧館内の大会議室改修後に開設される「福澤諭吉記念慶應義塾史展示館」やその他の施設の配置・開館時間、

また運営の関係上、残念ながら実現しなかった。

出入口設置場所は現状のままとなったが、常に3階を経由しなければならない動線を見直すことは確実となり、1階にサービスカウンターを移設することになった。地下2階から地上4階に書庫があるため、中間に位置する1階は万が一災害が起こった際にも利用者が避難経路を把握しやすく、サービスフロアならびに出入口の配置として適切であった。また、後述するエレベータ利用の関係で、出入口は若干の位置変更が加わり、以前利用していた第二書庫と第三書庫の間ではなく、工事用として開口した出入口の強度を上げ、スロープを設置し整備することとなった。(図1)

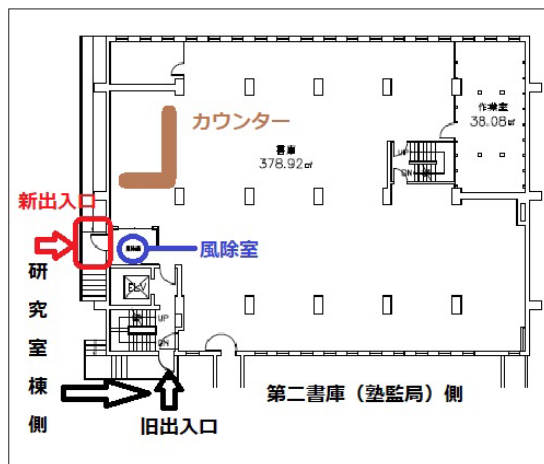


図1 旧館1階出入口の変更（第三書庫）

## (2) 各階書庫へのエレベータの利用

エレベータを書庫間移動の手段として使用できるようにするためには、書庫の外側に配置されているエレベータを書庫に内包する工事が必要であった。そのためには、いくつかの壁を取り払うとともに壁の新設が必要な箇所があり、構造上の検討を管財部が行った。メディアセンターでは、防犯面の確認やエレベータを共同利用している方たちへの動線確保の確認を行った。エレベータで書庫を利用できれば、車椅子での入庫が可能となるため、風除室内の扉を自動ドアにし、入退館ゲートを車椅子が通行可能となるよう配慮した。

## (3) 3階第三書庫：各種操作盤と書架移設

3階にあったサービスカウンターを撤去し、1階に新規のカウンターを設置することにしたため、3

階壁面にあった放送設備・火災受信機等多数の操作盤も1階カウンター付近に移設することが決定した。この操作盤類の移設は配線工事が伴うため、工事費も高額になると管財部から説明を受けた。

また、書架設置スペースを捻出するため、3階第三書庫の地図室ならびに未使用の給湯室を解体、AVコーナーもコンパクトな什器に変更して1階へ移動した。耐震工事中に旧館資料の仮置き場所として使用していた綱町別館の書架約200連を3階第三書庫に増設した。

## (4) 2階第三書庫の吹き抜け工事

カウンターを1階に設置するにあたり、悩ましいのが2階第三書庫の扱いであった。旧館1階と2階は積層書架のため、1階の支柱を撤去して有人カウンターにする場合、支えがなくなる2階も安全上支柱を撤去して吹き抜けにする必要があった。常に書庫狭隘化に苦しむ状況のため、戦災の遺構として立ち入り禁止となった5階第一書庫に続いて書架を失うことに心配があったが、利用者動線の最適化とエレベータが使用できるメリットのほうが大きいと判断した。積層書庫の圧迫感を緩和する目的で、2階の吹き抜け部分に柵を設置して1階カウンターを見下ろせるように要望したが、構造上難しいという結論になり、天井までの壁を設えることになった。



図2 1階吹き抜け工事前（書架支柱と天井がある状態）



図3 1階吹き抜け工事と壁面設置（書架支柱と天井の撤去・右上部に2階の壁面設置・左手前にエレベータ内包用の壁面設置）

#### (5) 1階第三書庫へのカウンター移設

本来はゆとりのあるサービスカウンターを設置しなかったが、エレベータへの動線、車椅子通行幅の確保、書架解体を最小限に抑える条件のもとでは、小型のサービスカウンターとなった。さらに3階に設置されていた業務用／非常用放送盤・防災電話・火災受信機等もカウンター付近に取り込む必要があり、管財部とともに何度もスペースを測って、パズルのように什器配置を決めていった。

新しい1階が姿を見せるまで印象がつかめず不安要素だったのが、積層書架の支柱がそのままカウンター周辺に残る点であった。カウンターのある部分は2階まで吹き抜けとなるため、支柱ごと撤去されるが、書庫とカウンターの境界線やAVコーナーを設置する部分には支柱が残るため、支柱間の幅に合わせて什器を置くなどの工夫が必要だった。実際に完成してみると、動線を妨げる部分は多少あるが、許容できる範囲であった。



図4 撤去直前の旧3階サービスカウンター



図5 新1階サービスカウンター



図6 AVコーナー

1階については、空調に関する懸念もあった。1階は2階と連動して書庫用空調設定（終日冷房運転）のため、冬場は出入口付近にあるカウンター周辺が内外両方から冷えてしまう心配があった。床暖房は高額な追加工事が伴うため難しく、カウンター用のエアコンのみでは2階の吹き抜けに温風が逃げてしまう問題があった。管財部実施の調査により、輻射パネルヒーターが追加で設置されたが、実際にはそれでも有人カウンター環境として維持するには難しい状況であったため、2021年7月に1階と2階の空調系統を個別にする工事が行われた。電気・空調・建築構造等、メディアセンターでは想定できない専門的なことが多々あり、親身にこちらの相談に対応してくださった管財部の方にはスタッフ一同感謝している。

また、1階第三書庫は、経年劣化した床の張替えと壁面塗装工事を2021年8月の一斉休業中に行うことができた。つぎはぎで所々欠けていたPタイルが全面カーペットとなり、壁面も塗り替えたことで書庫の印象も明るくなった。1階はサービスカウンターとのつながりや出入口フロアとしての視認性向上のために赤いカーペットを選択し、階段や第2書庫への最短経路を赤ストライプのカーペットで示すようにした。他の階も順次張替えを行っていく予定

であるが、出入口階との区別をもたせ、落ち着いたある紺色系のカーペットの採用を検討している。



図7 1階カーペット張替え前



図8 1階カーペット張替え後

#### 4 改修後の状況

ほとんどが2020年夏に行われる予定の改修工事であったが、コロナ禍により本格的な事前調査が開始できたのが同年10月末であった。年度内工事完了を目指しタイトなスケジュールであったが、予定していた改修は完了することができた。2020年度にほとんどキャンパスに来ることができなかった学生は、冒頭にあるような旧館の不便さを知らずに改修済の旧館に初めて足を踏み入れるのかもしれないが、時々「きれいになっている」と言いながら入館してくる人や「分厚い資料を抱えての階段移動は辛かったのでエレベータができて嬉しい」というツイートを見ると、概ね好意的に受け止められているようである。

2021年度実施予定としていた旧館内サインの刷新も前倒しで2020年度末に実施できた。洋書を多く配架している旧館は、留学生の利用が多いにもかかわらず、ほぼ日本語表記のみの古びたサインや手作りサインだったが、英語併記に新調され、利便性の向上につながった。

改修の前後には、再配置の必要な資料について移動作業を行っている（表1）。主なものとしては、新館地下4階特殊書庫にある特別資料や卷子本を旧館1階・2階の閉架書庫に移動し、そのスペースに準貴重書と装本を再配置した。それらは耐震工事の間、旧館地下1階準貴重書室から慶應義塾女子高等学校別館（以下「女子高別館」とする）に移動していた資料群で、これにより古くて暗い（新人のころは行くのが怖かった）旧館の準貴重書室は廃止されることとなった。また同時に、本来準貴重書室としての役割をもつ新館地下4階特殊書庫に準貴重書と装本を集約したことで、特殊書庫整理の足掛かりにもなった。この移動作業の前には、専門業者による除菌噴霧作業を実施し資料の保全にも努めている。

女子高別館の資料をすべて搬出後、書架の一部の再利用を検討し、新館・旧館・南館の各所へ2020年度末に移設した。旧館地下1階第三書庫に移設した書架は、耐震工事や資料増加によって仮置きしていたブックトラック11台分の資料をも吸収し、書庫狭隘化の問題を少なからず解決することができた。

#### 5 おわりに

第三書庫各階のカーペット張替え・壁面塗装や空調工事は引き続き実施予定である。また震災等の有事の際、利用者を避難誘導する動線を的確に確保するために不足している避難誘導標識の追加調整は、三田メディアセンター総務担当と管財部によって進められている。今後は、避難経路図の作成や避難訓練の実施、旧館書庫出入口扉の改修など、より安全安心な館内環境整備を継続して行っていきたい。

旧館は、日々多数の利用者が来館する新館と違い、書庫としての機能が強いために改修・修繕が後回しになりがちであった。しかし、明治45年から慶應義塾を見守っているその存在そのものに大きな意味があり、旧館耐震・改修工事は、慶應義塾にとって「世紀の大工事」であった。メディアセンターが携わったのは、大工事全体からすれば資料移動・再配

置・内部改修と小さな部分ではあるが、大きな変化の一端に関与できたことに感謝し、慶應義塾のシンボルである旧館をこの先も内側から磨いていきたいと思う。

#### 参考文献

- 1) 木下和彦. 図書館旧館改修工事と資料移転. MediaNet. 2017, no. 24, p. 32-35.
- 2) 平吹佳世子. 図書館旧館改修工事と資料移転 - 再配置 -. MediaNet. 2020, no. 27, p. 56-58.

表 1 旧館資料移動

| 実施時期     | 資料                   | 旧配置場所              | 新配置場所      | 備考                        |
|----------|----------------------|--------------------|------------|---------------------------|
| 2020年2月  | EC@9A~18A, EC@1B~2B  | 旧館2階第二書庫           | 変更なし       | 別置資料組込と全体調整               |
|          | EC@3B~5B             | 旧館2階第三書庫           | 旧館2階第二書庫   | 旧館2階第三書庫狭隘化対策             |
|          | EC@9B~18B            | 旧館2階第三書庫           | 変更なし       | カウンター上部吹き抜け部分の確保          |
| 2020年2月  | 地図室資料                | 旧館3階第三書庫           | 新館地下4階集密書庫 | 地図室解体のための移動               |
| 2020年3月  | 村田文書・村上文書・花井文書       | 新館地下4階特殊書庫         | 旧館2階第三閉架書庫 | 準貴重書以外の主な特殊資料を移動          |
|          | 卷子本・別置本              | 新館地下4階特殊書庫         | 旧館1階第三閉架書庫 | 準貴重書以外の主な特殊資料を移動          |
|          | 準貴重書と装本              | 女子高別館（別館J）         | 新館地下4階特殊書庫 | 新館地下4階特殊書庫へ準貴重書を集約        |
| 2020年8月  | B@700~799            | 旧館地下2階第三書庫         | 変更なし       | 資料増加対策のための引き延ばし           |
| 2020年10月 | B@330番台前半の資料         | 旧館1階第三書庫           | 変更なし       | AVコーナー移設・CD/DVD棚確保        |
| 2020年11月 | 遠山音楽文庫（雑誌）           | 旧館地下1階第二書庫<br>集密書庫 | 新館地下4階集密書庫 | 雑誌の配架集約                   |
| 2021年1月  | CD/DVD               | 旧館3階第三書庫           | 旧館1階第三書庫   | AVコーナー移設に伴う移動             |
|          | 付録資料・CD/DVD          | 旧館3階カウンター          | 旧館1階カウンター  | カウンター移設に伴う移動              |
| 2021年2月  | 遠山音楽文庫（図書）           | 旧館地下1階第二書庫<br>集密書庫 | 旧館3階第三書庫   | 網島別館（別館T）からの移設書架へ移動       |
|          | B@400~599            | 旧館地下1階第二書庫<br>集密書庫 | 旧館3階第三書庫   | 網島別館（別館T）からの移設書架へ移動       |
|          | CL@の一部・B@900番台の一部    | 旧館地下1階第二書庫・第三書庫    | 山中資料センター   | 旧館地下1階第二書庫・第三書庫狭隘化対策      |
| 2021年4月  | B@930~999            | 旧館地下1階第三書庫         | 変更なし       | 女子高別館（別館J）からの移設書架を使用し全体調整 |
| 2021年7月  | 遠山音楽文庫（楽譜・レファレンスブック） | 旧館3階第三書庫           | 変更なし       | 網島別館（別館T）からの移設書架へ移動       |
|          | B@235~399            | 旧館1階第三書庫           | 変更なし       | カーペット張替え・壁面塗装工事対応         |